

2024.5.28

## 視察報告書

報告者氏名 鈴木 ゆうすけ

### 1 参加者

鈴木 ゆうすけ

### 2 期間

令和6年5月23日（木）

午前11：00－午前12：00、午後1：30－午後3：00

### 3 観察地及び調査事項

八王子市役所

幼小接続を見通した教育課程の編成・実施の実践について

- ①乳幼児すくすくガイドラインについて
- ②保・幼・小連携の日の実施要項と効果について

### 4 所感等

#### （1）八王子市の概要

●面積186.38 km<sup>2</sup> ■人口57,75人

#### （2）目的

●公立幼稚園の無い八王子市では、幼児保育の質の保証や、  
保幼小の接続の課題解決のためにどのような施策をとっているのか。

#### （3）所感

●八王子市の架け橋プログラムはとても充実していると感じた。中でも「すくすくすくぐ  
てくガイドライン」は、公立幼稚園がなく、殆どが民間事業所である幼児保育施設の足並み  
をそろえる目的で作られた。まずこの視点が今の流山に必要な視点であり、幼児教育の質を  
どの程度、どのように市が担保するのかという視点で考えられていた。

幼児教育の視点を、まず学校に上がってくるまでに必要な要素を整理し、「幼児期の終わり  
までに育ってほしい10の姿」と小学校に入学してからの3週間に受ける小学校スタートカリ  
キュラムを関連項目ごとに紐づけ、幼児教育期間でどういった活動をしていくか、小学校生  
活に円滑に接続できるかという事を考えて設計されていた。

つまり幼児期には幼児期の（3-6才頃）、児童期には児童期（6-13才頃）のやるべきことを  
やるというある種分断されたような形ではなく、いつか社会に出ていくためにどのように人  
を育んでいくのかという考え方のもと、社会に出るために必要な要素を逆算していくような考  
え方ができていた。

主体がこどもであることを前提とし、遊びの中の学びをしっかりと関連付けた中で楽しみながらチャレンジしたり、遊びに夢中になることで学びの意識が芽生えて、学校などに行くことが楽しいと思える環境にするための仕組化がなされていた。

幼児期の目指す姿や小学校で学ぶことなど、大きな計画としてそれぞれがあるのではなく、計画とカリキュラムなどをしっかりと関連付け実践的な計画になっており、この部分を明確にすることで、公立幼稚園が無く、民間事業所が大多数の中でも小学校までにそれぞれの園で同じように大枠のビジョンを共有することで、一定の保育の質と子どもの架け橋をサポートする態勢が構築されていた。

要配慮児童に関しては、就学支援シートを全員が提出することになっており、これを一般化することを進めていた。要配慮児童の保護者に対し、特別な負担感や心配をさせることなく情報を集める配慮を感じた。

流山市でも、要配慮児童を市内全域の児童保育所で受け入れるよう整備を進めているため、定型発達の子と要配慮児童になるべく同様の対応や受け入れをし、こどもや保護者に対応などで強く差異を感じさせないような配慮を進めていく必要があると感じた。

また、それぞれの段階、児童教育保育・小学校・中学校など、それぞれの接続については、カリキュラムと計画の関連付けをより重要視し、実践的計画で今後更に現場の支えになること、また流山でも100を越える児童教育・保育施設があるが、どの園でも「流山式」で小学校に上がるまでの質の保証を市が担保できるようにしていくことが責務になっていく。その形を作り上げていくことが責務であると感じることができた。